遠足の聖地アピール

日高市と協定 デザイントラ製作

【埼玉】清水運輸グループ（清水英次社長、埼玉県志木市）は4月22日、日高市と「遠足の聖地ひだか」事業推進に関する協定の締結式を日高市役所で行った。締結式とともに、同事業で運行するデザイントラックのお披露目式も実施。日高市の観光資源をアピールする新車両を製作し、清水社長の案内で日高市の谷ケ崎照雄市長らに披露した。（佐々木健）

関東一円を走行

清水運輸G

日高市は豊かな観光資源や史跡が点在し、周辺自治体の小学校で遠足の目的地に選ばれることが多い。地域活性化事業として、2017年4月に「遠足の聖地」を宣言。市内の観光資源の整備を進めてきた。

清水運輸グループは14年にリコーデジタルペインティング（村井秀世社長、東京都町田市）製オートボディプリンターを導入。埼玉県内の自治体と協定を結び、保有するトラックの荷台カラーリングに、各地域にちなんだ図案を入れている。今回、グループ会社で温度管理輸送を手掛けるエスユーコールド（清水社長、志木市）入間事業所（入間市）の大型冷蔵冷凍車両に、遠足の聖地をPRするプリントを採用した。

荷台のデザインは、8世紀ごろに建立されたと言われる高麗神社、市内各所の巾着田を埋め尽くして咲くマンジュシャゲ、特産品の栗、巾着田に生息するカワセミの写真をあしらった。反対側には市のマスコットキャラクターで栗をモチーフにした「くりっかー」と「くりっぴー」を入れ、遠足の聖地を宣伝している。

日高市にちなんだデザイントラックの前に立つ谷ケ崎市長と清水社長㊨

協定締結式で、谷ケ崎氏は「デザイントラックは関東一円を走行し、遠足の聖地を宣言した日高市をPRしてもらえる。当市には年間150校以上の児童が遠足で訪れる。大人になっても子供時代のように再訪して欲しいと呼び掛けてきた。新型コロナウイルス禍で外出自粛が続くが、清水運輸グループの車両を見て、日高の素晴らしさを思い出してもらえる」と感謝の言葉を述べた。

清水氏は「各自治体と協定を結ぶことは、ドライバーの働く誇りと安心感につながる。緊急事態宣言下でも、物流事業者はエッセンシャルワーカーとして活動継続を求められ、ドライバーと家族も頑張っている。こうした協定は、その努力が無駄ではなかったという励みになる」と応えた。

農業事業へ本格参入

拠点隣接農地をソバ畑に

盛運

【埼玉】盛運（穐山正明社長、埼玉県羽生市）が農業事業に本格的に参入する。2020年12月から稼働している北関東ターミナル（加須市）に隣接する自社所有地2万平方㍍の農地をソバ畑として、21年3月に種まきを行った。今秋に初の収穫を目指す。畑の周辺にはそのほかも合わせて3万平方㍍規模の農地を所有しており、早ければ22年にも四季折々の野菜などを収穫することも目標に掲げている。

19年10月10日付で、農業法人・令和四季彩農場（穐山社長、同市）を設立しており、これまでもソバの種まきを実験的に行ってきて、ようやく事業化のメドが付いたところ。農業法人設立に当たり、農業経験者2人を理事として採用しているほか、中国人3人が技能実習生として研修中という。

緊急避難場所として提供予定の北関東ターミナルの事務所

運送会社が農業事業に参入するのは珍しいが、背景には近年多発する自然災害がある。食料不足に陥った際に、コメと比べてソバや麦は普通倉庫でも長期保管が可能な利点がある。また、ソバは年2回の種まきで春と秋に収穫でき、ほぼ1年を通じて採れることも選定理由としている。

20年秋に関東地方を襲った台風では、加須市近くを流れる利根川の堤防が決壊寸前となったことで、加須市も災害時での危機意識を高めている。このため、隣接する北関東ターミナルを近隣住民らの緊急避難場所として提供する考えで、近く市側との協定調印を計画している。

穐山社長は「10年ぐらい前から近隣の農地を買い増しして、ようやく認可にこぎ付けた。JAなどを通じてソバや野菜の販売を構想しているが、しばらくは試行錯誤の連続となり、数年間は赤字覚悟」と話している。（谷本博）

日本語学校、10月開校

学校法人 月内にも認可

【埼玉】盛運がグループ12社目として2020年に設立した、KJS東京日本語学校（穐山正明社長、埼玉県加須市）が21年10月にも開校する運びだ。5月にも学校法人としての認可が下りる見込みで、東京外国語大学で非常勤講師を務める水信渉氏が主任教員を兼ねた校長に就任する。

埼玉県央流通事業協組から買い取ったKJS東京日本語学校

KJSは、「加須ジャパニーズスクール」の頭文字から採ったもので、学校法人としての認可に当たっては「土地、建物全てが自社所有でなければならない」とする規定を受け、グループの埼玉県央流通事業協同組合（穐山理事長）が保有する「外国人研修センター」の施設を丸ごと買い取った。

同センターは、同協組が03年から受け入れている外国人技能実習生を中心とした研修施設として18年に開設。東北自動車道・加須インターチェンジから車で10分程度の場所に位置する旧保育園施設を丸ごと購入し、5千万円掛けてリニューアルした。敷地面積1320平方㍍で、平屋建て施設の床面積が440平方㍍。最大60人まで同時に受け入れ可能だ。

外国人実習生の受け入れに際しては、入国後1カ月間の法定研修が義務付けられており、今回の施設売却に伴い、研修センター機能を盛運本社ビルの1フロアに移転させた。

同協組では18年間で、中国人をはじめフィリピンやベトナム、タイなどから18歳以上の若者を延べ200人以上受け入れている。グループで大型トラックなどの整備業を展開する彩北自動車整備工場（穐山社長、加須市）では、整備士実習生としてフィリピン人を中心に受け入れており、現在は主に中国人とフィリピン人43人が在籍する。

日本語学校は4月と10月の年2回の開講で、原則として生徒は1年半から2年かけて卒業する。正式な学校としての卒業証書を発行できることから、外国人の間でも関心は高い。今後、中国やフィリピン、タイなどを訪問して生徒を募っていく。

穐山社長は「技能実習生は十数年かけてようやく定着し、自社グループ企業にとっても労働力不足解消につながっている。ただ、学校はこれからの開校となるため、向こう3年間は赤字を覚悟している」と話している。（谷本博）

講習受講手続き ウェブで可能に

陸災防埼玉支部

【埼玉】陸災防埼玉県支部（鳥居伸雄支部長）は2021年度、講習の受講手続きに、オンラインの予約システムを導入する。4月22日、埼玉県トラック協会（同会長）が開いた陸災防推進委員会で、事業計画案を示した。

ホームページ（HP）を分かりやすく、内容の充実したものにリニューアル。情報提供の機能を強化する。

併せて、埼ト協で運用されている予約システムを導入。フォークリフト運転技能講習など、各種技能講習と安全衛生教育講習の受講者数増につなげる。今までは電話で受講申し込みを受けていた。

同委では、県内陸運業の労働災害発生状況を報告。死傷災害が増えており、その大部分を墜落・転落が占めていると説明した。

鳥居支部長は「労災防止に向けては、トラック総合教育センター（埼玉県深谷市）の講習も含めて対策を講じているが、数字に表れてこないのが歯がゆいところ。各事業者には、とにかく労災防止で対策を練っていただくよう、お願いしたい」と話した。（辻本亮平）

60歳以上に安全講習

神ト協 認知・判断機能を確認

【神奈川】神奈川県トラック協会（吉田修一会長）は4月24日、シニア運転者安全講習を小田原ドライビングスクール（小田原市）で開催した。

高齢者の事故防止対策の一環として行っている。加齢に伴う体の変化が運転に与える影響や、高齢歩行者、高齢者が運転する自転車の行動特性を理解し、安全運転継続の方法を習得するのが狙い。

50歳以上のドライバーが対象だが、受講希望者が定員を上回ったため、今回は60歳以上に限定。新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で実施した。

座学では、同スクールの緒方克宣講習次長が、運転中の感覚・目測、高齢者の特徴、車両構造、死角などについて解説。

実車講習では、日常点検のポイントを説明するとともに、受講者が実際にトラックを運転して、信号の変わり目での反応や危険回避を体験しながら、自身の認知・判断機能、運転のくせなどを確かめた。受講者には修了証が交付された。（吉田英行）

DR活用を学ぶ

【神奈川】神奈川県トラック協会は4月22日、ドライブレコーダー（DR）活用講座を開催した。

講師のディ・クリエイト（大阪府豊中市）の上西一美社長が「交通事故は原因を理解しているだけでは防げない。感覚に頼らず、注意点を数値化して理想の運転を示すことが重要」とあいさつ。

研修では「管理者が知っておきたい 運転を数値化すると事故が無くなる」をテーマに、DRで録画した事故映像を上映しながら安全運転のポイントを解説した。

また、神ト協は研修申込者に限定して、研修内容を動画共有サービス「Vimeo（ビメオ）」を使ったインターネット中継を実施。今後、研修を補完する目的で活用を検討していく。（菊地将矢）

HPアクセス数 動画広告で2割増

【神奈川】神奈川県トラック協会のホームページ（HP）の注目度が高まっている。2020年度のアクセス数は、19年度と比べ2割増加。エッセンシャルワーカーをテーマにした動画広告＝写真＝が奏功した。

PR動画は、エッセンシャルワーカーとしてのトラックドライバーの役割や仕事ぶりなどを15秒間にまとめたもので、100%視聴回数は、動画投稿サイト「ユーチューブ」が35万回、短文投稿サイト「ツイッター」は46万回以上。広報部の解析によると、「エッセンシャルワーカー」とキーワード検索して広告に到達し、ユーチューブやSNS（交流サイト）から神ト協のHPへ流れている。

PR動画は、ユーチューブの神ト協公式チャンネルに掲載しているほか、梅田橋交差点（横浜市都筑区）の大型ビジョン、JR新横浜駅の構内ビジョン、県内の自動車教習所12校の待合所でも放映されている。（菊地将矢）

支部長に高田氏

栃ト協 栃木支部 交安活動を継続

【栃木】栃木県トラック協会の栃木支部（鈴木和夫支部長）は4月24日開催の総会で、任期満了に伴う役員改選を行い、高田幸男副支部長（64、高田運送）の支部長昇格を決めた。鈴木支部長（69、鈴木商事）は監事を務める。また、古沢伸一氏と村上茂氏が新たに副支部長に就任した。

新執行部の（左から）古沢副支部長、神山副支部長、高田支部長、関根副支部長、村上副支部長

鈴木氏は「この1年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で十分な活動ができなかったことが心残り」と振り返った。その上で「4年間ご協力いただき感謝する。新体制にもお力添えいただきたい」と、感謝とともにエールを送った。

高田新支部長は「微力ながら務めさせていただく。このようなご時世なので、できる範囲で活動できたらと思う。意見があればお願いしたい」とあいさつした。

2020年度は9月に左折巻き込み防止実習会を開催。12月は交通安全に関する活動を3回行った。21年度は引き続き交通安全活動を行うとともに、環境美化運動や労務管理講習会などを開催する。（伊代野輝）

社会貢献活動行う

宇都宮東支部

【栃木】栃木県トラック協会の宇都宮東支部（田崎英明支部長）は4月23日の総会で、役員全員の留任を決めた。2021年度も交通事故・労働災害の撲滅や適正運賃・料金の収受、荷主企業との協働をスローガンに活動していく。

（左から）吉田順一副支部長、田崎支部長、太田政幸副支部長

田崎支部長（71、三協興業運輸）は「昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために総会を書面決議とした。会議や行事も延期・中止が相次いだが、交通安全活動など、隙間を縫って行えたものもあった」と20年度を振り返った。その上で、「運送事業を取り巻く環境は厳しいが、情報交換を行い、課題をクリアしていこう」と述べた。

20年度は12月に2回交通安全活動を実施し、安全運転を呼び掛けた。21年度は、街頭での交通安全啓発活動、左折巻き込みの実験などの交通安全教室で事故の無い社会づくりを目指す。道路美化活動や労務改善研修会も開催する予定。また、以前から行っている使用済み切手の収集と海外医療支援団体への送付やチャリティーゴルフコンペの開催など、社会貢献活動を行う。（伊代野輝）

見目氏が支部長

日光支部

【栃木】栃木県トラック協会の日光支部は4月24日に開いた総会で、任期満了による役員改選を行い、馬場登志夫支部長（67、折一）の退任を決めた。後任には見目重広氏（55、見目運送）を選出。副支部長には中山文仁（中山運送）と嶋田正法（嶋田運送）の各氏が新たに就いた。

（左から）事務局長兼会計の阿部光記氏、嶋田副支部長、見目支部長、中山副支部長

2020年度は9月に運行管理者講習会を開催。21年度は交通安全教室を複数回予定しているほか、労務改善研修会や道路美化活動なども開く。（伊代野輝）

トラックにも ユニフォーム を着せて、もっと会社をPRしましょう！
シール、ラッピングはもう古い
トラックには ダイレクトプリント！

お近くの施工ショップをご紹介いたします。
042-786-2109
プリント施工の様子をご覧いただけます。
トラック看板のことなら何でもご相談ください。
デザイン作成から、プリント施工まで、一貫したサービスをお届けできます。
RICOH imagine. change.
リコーデジタルペインティング株式会社